

平成 22 年度 第 2 回新ひょうご子ども未来プラン推進協議会での主な発言内容

日時:平成 23 年 3 月 28 日(月) 13:30~15:30

場所:兵庫県公館 第 1 会議室

1 子どもを産み育てる

- ・誰もが安心して子どもが産み育てることができる、ということを目指しているのならば、知り合いがいない人でも 3 人、4 人と安心して子どもを産み育てることができるような支援をお願いしたい。
- ・子どもを自分自身が産み、育てるときには、自分から子どもともどもお母さん方とつながっていくような努力をするべき。自然に誰もつながってはくれない。
- ・子育てで、心の中を支えてくれるのは、お互い同じ立場の人である。行政がまちの子育てひろばなどにどんどん力を入れている。そこに積極的に入って行って、そこで自分自身が支えられ、今度は支える立場になって、という風にしていったら良いのではないか。
- ・今回の震災で、一時的に兵庫県に避難された親子が、子育てひろばなどに来ている。疲れているお母さんから大変な話を聞いてあげたり、あるいは子どもたちと一緒に自由に遊んでもらったりしている。本当に、このような場所が必要であることを今回つくづく感じた。このような場所がいろいろなところに数多くあることが大切である。
- ・不妊治療の治療費で困っている女性が多いと聞く。不妊治療の助成制度は、子どもを希望している夫婦にとって、有効な手立てであると思う。
- ・不安がらずに子育てができるよう、各市町が妊婦健診の中で提供している支援メニューなどをリーフレットとして配布してもらいたい。

2 子どもの成長を支える

- ・保育所や幼稚園に入園する半年から 1 年前くらいから、地域のお母さんがよく行く場所で、子育てのアドバイスを受けることができる機会があればよいのではないか。
- ・発達障害児の相談も多くなっている。早期発見の場所を増やすことはありがたいことである。加えて、そのような相談に対応できる専門家を保健センターなどに増やし、専門性をしっかり上げていただきたい。
- ・発達障害の早期発見を目的とした 5 歳児健診の実施にあたっては、市町にも負担がかかるということもあり、今の市町の体制では、なかなか進んでこなかった。23 年度の新規事業で、5 歳児の発達相談という事業があがっているので期待したい。
- ・発達障害や学習障害の問題について、不安を解消するには、相談や診断を受けることができる窓口を教えてあげることはないか。もっと言えば鑑別診断ということで、問題に応じて、専門機関を紹介することが一番大事なのではないか。
- ・医療、精神、心理、あるいは教育の専門家等がそろった形で一人の問題のありそうな子どもを総合的に診断する、そういうセンターが一つあってもいいのではないか。

3 豊かな人間性を育む

- ・教育は多様であっていいのではないか。学校教育法という法律とならんで、全国的にオールタナティブ教育、自由教育法という法律があっても良いのではないか。
- ・子どもの不登校の問題は、周りの家族の支えや感情、熱意によって立ち直れる場合もある。不登校になる子どもは、家族も子どもも本当に苦しい。一番苦しいのは子ども本人だと思う。でも、そこはある部分、ぐっとがんばるところも必要ではないか。
- ・高校生・大学生の子どもとのふれあいに関する事業にも力を入れていただきたい。小さい子とふれあって、自分たちが小さかったときのことなどを学ぶことが、次代の親をつくることにつながる。高校生でもこのようなつなぎのきっかけを作っていただきたい。

4 子育てと仕事の両立を支える

- ・仕事と生活センターの各種助成金については、要件等について、より活用されるよう、融通が利くような形で実施していただきたい。
- ・昔は企業内に家族的な雰囲気があって、それが成長の中では成果として出てきた。最近、そのような家族的雰囲気というものを作っている経営者も出てきつつある。

5 “良きおせっかい社会”による家庭応援

- ・良きおせっかい社会による家庭応援では、女性なり、家族を持った人たちが次世代に伝えていくための便宜を図っていくことが重要である。出産・育児を経験した人たちが自分の経験を次世代に伝えるために参加できるような仕掛けがないと、うまくつながらないのではないか。

6 全体的な意見

- ・直接地域の子ども、若者と接している者として、何かあったときに、どこかに相談したら良いのかなど、具体的な内容について、案内してもらえればと思う。新ひょうご子ども未来プランのような幅広い施策が網羅されている場合、部署ごとに連携していただけたらありがたい。
- ・こういうプランが、タイムリーに時にはケースバイケースで必要な県民に伝わっていくためのシステムが、今、一番弱いのではないか。
- ・事業とそれを必要としている人とをマッチングさせるのに不足していることは、どういうサービスが必要なのかという中味ではなくて、そのサービスをどうつなぐかという中味ではないか。
- ・イベントなどに参加していない親子に対して、このプランをどう知らせていくのが課題である。
- ・このプランは範囲の広いプランなので、それを年代ごとなどに整理していただくとうれしい。
- ・今回の大震災に関して、兵庫県でも支援していく体制を整えて、様々な取組を活発に行っていると聞いている。支援に出かけるということもされているが、こちらの方に移ってこられるという方もこれから、さらに数が増える可能性がある。そういった方面の子育て支援についても兵庫県の全国に向けての役割としてあるのではないか。